

【参考】指標一覧(分野別計画③関係)

分野	施策	指標名	出典	基準値		目標値		目標値設定の考え方 ※目標値をどのような考え方で設定したか説明してください。
				数値	時点	R12	R17	
7	7-1 平和と人権の尊重	広島・長崎の平和式典への市民派遣事業の累計参加者数		399	R6	531	641	令和6年度までの数値が399人であり、毎年市民を22人派遣しているため、R12年は399+22×6=531(人)、R17年は399+22×11=641(人)とした。
		基本的人権にかかわる問題に関心がないと回答した人の割合	市民意識調査	10%	R6	8.5%	7%	H27年度からR6年度で「特にない」と回答した人の割合が約3%減少しているため、同等の減少率を目指す。
		性別による固定的な役割分担に否定的な人の割合	男女共同参画に関する意識調査	69.3%	R5	75%	85%	H26年度から令和5年度の10年間で15.2ポイント上昇したことから、今後もこの上昇率を維持していきたい。
	7-2 互いに支え合う地域コミュニティづくり	自治会加入率		67.7%	R6	67.7%	67.7%	自治会加入率は毎年1~2%程度低下しており、加入率の低下は全国的な趨勢である。今後もさらにこの傾向が進行する可能性は高いが、住民による地域づくりとコミュニティの維持及び活性化に自治会は不可欠の要素であるため、現状維持を目標に掲げることとした。
		市民活動に参加意欲がある市民の割合	市民意識調査	33.6%	R6	37%	40%	「市民活動に参加している」「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」と回答した市民の割合を指標とする。 自治会活動を含め、NPO等による市民活動への参加の機会が増えると捉え、増加傾向とする。 R12はR6から3ポイント増の37%、R17はR12から3ポイント増の40%と見込んだ。
	7-3 安全安心な生活環境づくり	刑法犯認知件数	埼玉県警察	2,498	R6	2,440	2,320	○R12の目標値はR6の▲2.5%を目標とした。 基本的に、前期、後期とも、年1%前後を目安として、基準年の▲5%(10未満四捨五入)とするところ、「刑法犯認知件数」は、コロナ禍で大幅に減少したものが、R4以降一貫して増加傾向で、R7も全国的な趨勢として続いているため、前期は、「増加を減少に転じさせ」て、さらに「減少させる」段階を経ることを想定し、▲5%としたいところ、半分の▲2.5%とした。 ○R17の目標値はR12の▲5%を目標とした。
		交通事故(人身事故)発生件数	埼玉県警察	894	R6	850	810	○R12の目標値はR6の▲5%を目標とした。(年1%前後減少を目安) R7は市内で増加の傾向だが、市内の過去3年は減少している推移や、R7の県内全体では増加の趨勢とまでは言えないため、R12までに▲5%とした。 ○R17の目標値はR12の▲5%を目標とした。(年1%前後減少を目安)
	7-4 防災・危機管理体制の整備	3日以上の水や食料を備蓄している市民の割合	市民意識調査	33.7%	R6	37%	40%	H27調査からR6調査までの10年で、25.4%から33.7%に8.3ポイント上昇しており、今後も、食料等の備蓄をはじめとした自助について啓発を進め、上昇率を維持していきたい。
		自主防災組織の結成率		81.8%	R6	85%	90%	第四次川越市総合計画においても指標として設定していたが、目標の達成には至らなかった。 自主防災組織の結成が災害時における共助を促進するための重要な基盤であることに変わりはないため、引き続き同様の目標値とした。
	7-5 消防・救急体制の充実	出火率(件/人口1万人)		2.4	R6	2.2	2.0	過去10年間の数値変動と今後、より一層深刻化する少子高齢化に伴う人口減少を鑑みて目標値を設定したもの。
		救命率		13.4	R6	15	15	第四次総合計画の目標値20%が達成できておらず、過去10年の救命率の平均値が11.7%となっていることから、目標値を15%に設定した。

分野	施策	指標名	出典	基準値		目標値		目標値設定の考え方 ※目標値をどのような考え方で設定したか説明してください。	
				数値	時点	R12	R17		
8	多様な主体との連携・協働の推進	市の行政に関する情報提供について、分かりやすく提供されていると感じている人の割合	市民意識調査	78.9%	R6	80.0%	82.0%	年齢別内訳をみると、男女ともに20代、30代といった子育て世代が70%前半と低い状況にある。独身者を含め、この世代を基準値に引き上げることで80.0%以上を目指したい。	
		市民と行政で一緒にまちづくりを進めていると感じている人	市民意識調査	46.1%	R6	50.0%	52.0%	地区別内訳をみると、大東地区が最も高く52.2%で、その他の地区は50%を下回っている。当計画案でも様々な場面で「市民との協働」を提唱していることから、全体で50%を上回る目標としたい。	
	行財政経営マネジメントの推進	経常収支比率		99.8%	R5	97.5%	95.0%	R12にコロナ禍前のH30（97.9%）と同水準とし、R17にR5における県内市平均（94.9%）と同水準としたい。	
		市税収入率		97.83%	R5	98.5%	99.0%	基準年度から0.5%ずつの増とすることで、R12に県内市平均（98.5%）とし、R17には県内市平均を上回る目標としたい。	
	8-3	公共施設マネジメントの推進	公共施設の延床面積 （上下水道局所管部分を除く）	公共財産台帳	784,022	R6	780,000	778,000	今後の更新・除却の予定を考慮して設定。
	8-4	行政DXの推進	手続のオンライン化率		12.62%	R5	100%	100%	対面での手続が必要な場合等、オンライン化が困難な手続を除く、オンライン化可能な手続を母数として算定する。 今後、手続きの追加やアナログ規制対応等により、オンライン化可能な手続は増加する見込みであるが、目標値は100%を目指したい。
			オープンデータファイル数		229	R5	450	600	R4→R5の増加数の実績から
	8-5	魅力発信の充実	川越市に住み続けたいと感じている人の割合	市民意識調査	88.6%	R6	89.6%	90.6%	R3からR6の伸び率（1.2%）から。
			川越市に愛着を持っている人の割合	市民意識調査	82.3%	R6	83.3%	84.3%	R3からR6の伸び率（1.5%）から。